

1. 第 40 期（令和 8 年度）事業計画

(1) 本 社 事 業 部（富山市民プラザビル）

市民プラザビルの運営にあたっては、賑わいの創出を図り、中心地区活性化に寄与することを大きな目標に掲げ、時代の変化（近隣商業環境、経済状況、消費動向、情報通信技術の進展、ライフスタイルの変化等）に対応した施設運営を図ってまいりました。

今期は、まち歩きツアー「ますます富山」が本格的に稼働し、順調に参加者が増加しており、季節に応じた旬なネタを織り交ぜながら、創意工夫を凝らして実施しています。また、学生シェアハウスの入居率は 8 割を維持しており、学生がまちなかでイキイキと活動する拠点として定着しています。

一方で併設している食堂事業について、収支は厳しい状況が続いていますが、観光客の朝食利用や団体予約が増加傾向にあります。

第 40 期（令和 8 年度）は、全社的な財政状況を注視しつつ、従来どおり施設の適正な維持管理に努め、安心かつ快適に利用できる施設を目指します。また、学生シェアハウスの 2 棟目、3 棟目の候補物件の選定を行うとともに、1 棟目で培ったノウハウを活かしながら、新たなチャレンジを検討していきます。

(2) 駐 車 場 事 業 部（グランドパーキング）

グランドパーキングの運営にあたっては、中心商店街の活性化に寄与できるよう「明るい・きれい・とめやすい」施設の運営管理を心がけております。

今期は、利用台数及び売上ともに微減で推移している中で、平日の駐車料金の設定を変更したことや定期券利用客の確保に努めたことで、一定の売上を維持しました。また、能登半島地震に伴う上空通路の修繕費について、総曲輪シティからの受取補償金（修繕負担金）の受け入れがありました。

第 40 期（令和 8 年度）は、地震により破損した泡消火設備の復旧工事など、修繕費が大きく増加することが想定されていることから、経費節減を図りながら施設の維持にも努めるとともに、定期駐車利用客を一定数確保することで売上を維持してまいります。

(3) まちづくり事業部（旧・株式会社まちづくりとやま）

まちづくり事業部の運営においては、注力している地場もん屋が開業15年目を迎え、売上とともに生産者の会員数も増加傾向となっています。今後も品揃えの充実を図り、季節に合わせたイベント等を企画・実施していきます。

また、まいどはやバスの乗車料収入も増加しております。今期は「謎解きイベント」を実施し、気軽に乗車できるきっかけを作っています。さらに、令和6年9月に事業承継にした「ほとり座」が自社運営となり、昨年9月で1年が経過し、順調に入場者数が増加してきましたが、収支は厳しい状況です。

第40期（令和8年度）は、引き続き地場もん屋において安定的な売上を維持するなど自主財源の確保に努めます。また、「ほとり座」は大手シネマコンプレックスとは一線を画した独自文化の発信拠点であり、まちなかの貴重な施設であることから安定した運営ができるように、併設するライブホールでの上映（2スクリーン化）も視野に入れながら、集客及び売上の確保に努めてまいります。

加えて、グランドプラザの利用料収入やコミュニティバス事業の収支改善に努めるとともに、当事業部が不採算事業の対応に追われないよう、また、補助金に依存する体質から脱却できるよう取り組んでまいります。

こうした現状を踏まえながら、次の事業に取り組んでまいります。

- (1) 富山市民プラザビルの賃貸と管理運営
- (2) まちなか学生シェアハウス fl の管理運営
- (3) グランドパーキングの管理運営
- (4) 地場もん屋の安定的な収益の確保
- (5) 賑わいと話題性溢れるイベントの実施

2. 第 40 期（令和 8 年度）収支計画

（単位：千円）

収 入 の 部		支 出 の 部	
項 目	金 額	項 目	金 額
家 賃 収 入	471,200	〔仕 入 高〕	77,100
共 益 費 収 入	144,100	人 件 費	294,400
駐 車 場 収 入	221,000	一 般 管 理 費	556,200
事 業 収 入	283,200	イベント事業費	42,700
受 託 料 収 入	66,400	租 税 公 課	78,700
補 助 金 収 入	128,200	解 体 撤 去 費	1,200
雑 収 入	8,400	小 計	973,200
受 取 利 息 等	2,220	減 価 償 却 費	267,700
合 計	1,324,720	合 計	1,318,000
差 引 額			6,720